

○プロジェクト研究1451-3

「アクティブラーニングを促進する

IPE (interprofessional education) プログラムの開発」

○研究代表者	学長	永田博司
○研究分担者	看護学科教授	加納尚美
(10名)	看護学科教授	吉良淳子
	看護学科准教授	富田美加
	理学療法学科准教授	滝澤恵美
	作業療法学科教授	齋藤さわ子
	放射線技術科学科准教授	對間博之
	医科学センター教授	武島玲子
	医科学センター教授	馬場 健
	人間科学センター講師	海山宏之

○研究年度 平成28年度
(研究期間) 平成26年度～平成28年度(3年間)

1. 研究目的

わが国では、平成24年8月に出された「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)」に続き、平成25年8月に「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について(審議まとめ)」が相次いで出されるなど、アクティブラーニング(能動的学修)への迅速な対応が、高等教育機関における喫緊の課題となっている。一方、本学では平成25年度から導入した第4次カリキュラムにおいて、専門職連携に関する科目群であるIPEコースを重要な柱として位置付けている。その効果的な教育の遂行にあたっては、アクティブラーニングが可能な環境の充実に加え、きめ細やかなプログラムによるFD活動が不可欠である。本研究は、国内外の先行事例を援用しつつ、アクティブラーニングを促進するIPEプログラムについて、茨城県立医療大学独自の方法論を探究し、効果的な手法として確立することを目的とした。

2. 研究方法

- 1) IPEによる教育効果の促進及び成果評価に関する研究
IPE科目の受講学生や教職員に対する質問紙調査を実施し、IPEによる教育効果を評価するとともにIPEの成果指標やIPEコンピテンシーを検討した。
- 2) アクティブラーニングを促進するIPEのためのFDプログラムの開発
IPEコース担当者のための研修プログラムの開発と実施及び評価を実施した。

3. 研究結果及び考察

- 1) 各科目の運営及び学修効果
 - ① チームワーク入門実習
受講前後に授業評価についての質問紙調査を実施した。平成28年度からは、本研究グループで開発した「卒業時に持つべき多職種連携の能力と適性の評価」に関するアンケート、群馬大学が開発した「チーム医療教育に対する態度に関する」アンケートを合わせて実施した。学生が記載したポートフォリオに関する質的分析を行い、多角的な評価を得ることができた。
 - ② 保健医療とチームワーク演習
筑波大学の医学2年生との合同によるインタープロフェッショナル演習も含め、順調に実施することができた。

受講前後の2年生に対する質問紙調査の結果に基づき、他のIPE関連科目との整合性を図るためのエビデンスを得ることができた。平成28年度からは、本研究グループで開発した「卒業時に持つべき多職種連携の能力と適性の評価(IPEコンピテンシーに相当する内容)」に関するアンケート、群馬大学が開発した「チーム医療教育に対する態度に関する」の2つのアンケートを実施し、継続的に学生の成長を多面的に確認するデータを得た。

③ 国際多職種協働実習

平成26, 27年度はロサンゼルスで実習を実施したが、平成28年度は応募者が少なく実施に至らなかった。実習参加者に面接調査を行い、授業評価の一助とした。

④ チーム医療演習

本年度初めてIPW(interprofessional work)に向けたIPEの統合を図るべく、1年・2年次生の授業を発展させた演習を実施した。学科横断的グループでの多職種連携演習と学生全員による討論、および福祉関連施設見学を行い、より望ましい多職種連携と協働の在り方について理解を深めることを目標とした。

授業評価としては、1年・2年次生科目と同様のアンケート、すなわち本研究グループで開発した「卒業時に持つべき多職種連携の能力と適性の評価」に関するアンケートと群馬大学が開発した「チーム医療教育に対する態度に関する」アンケートを合わせて実施した。また、今後、多角的な授業評価を質的に行うことを目的に各学生が記載したポートフォリオのデータを収集した。なお、平成27年度には、第3次カリキュラム卒業生にも同様のアンケートを行っており、第4次カリキュラム生と比較検討できる資料を揃えることができた。

以上をまとめると、IPE科目の授業評価より、概ね効果的な学修成果を確認できた。しかし、科目毎の調整や縦断的学修効果に関する分析を今後とも実施していく必要がある。

2) アクティブラーニングを促進するためのFDプログラムの実施及び体系化

教員に対するFDプログラムとして、IPEに特化した年間計画をFD企画運営部会と連携し実施した。専門家を招聘し「地域協働型プライマリ・ケアの実現に向けて」という題目で、全学、学外者を対象に研修を行った。また、2年と4年次生のIPE科目担当教員に対しては実習開始前に研修を実施し、共通理解のもと実習や演習の支援が行えるようにした。学生に対するFDプログラムとして、「チームワーク入門実習(1年次, 必修)」にファシリテーション・サポーターとして参加してもらう2年次生に対して研修会を実施した。

本学では初年次から「自校教育」を導入している点がユニークであり、FDプログラムへの反映に向けて継続的に資料整備を行った。これらFD活動の実施結果から、アクティブラーニングを促進するためのFDプログラムとして体系化するために、基本的事項と応用的な内容を整理し、FDプログラムを開発する必要がある。

4. 成果の発表

<論文>

- 1) 吉良 淳子, 富田 美加, 對間 博之, 加納 尚美, 滝澤 恵美, 齋藤 さわ子, 馬場 健, 武島 玲子, 海山 宏之. 多職種連携教育(IPE)コースにおける「チームワーク入門実習」の教育評価. 茨城県立医療大学紀要, 22, 2017;印刷中
- 2) 馬場 健, 富田美加, 加納尚美. 多職種連携教育(IPE)コース2年次科目「保健医療とチームワーク演習」の立ち上げ. 茨城県立医療大学紀要, 22, 2017;投稿中
- 3) 富田美加, 馬場健, 前野貴美. 大学合同のTBLによる多職種連携教育の実際(特集 自己解決力を高める Team-Based Learning). 看護展望, 2016;41(3):273-279
- 4) 富田美加, 馬場健, 加納尚美, 吉良淳子, 滝澤恵美, 齋藤さわ子, 對間博之, 庄司俊之, 武島玲子. 保健医療学部におけるTBL(Team-based Learning)を用いたIPE(Interprofessional education)の実践. 第22回 大学教育研究フォーラム論文集 2016;308-309

<学会発表>

- 1) Naomi Kano, Hiroyuki Tsushima, Sawako Saito, Takeshi Baba, Toshiyuki Shoji, Megumi Takizawa, Reiko Takeshima, Mika Tomita, Junko Kira. Development of student competence scale for interprofessional collaborative practice at the time of graduation. The 8th International Conference on Interprofessional Practice and Education(Oxford). 2016.Sep.
- 2) Takeshi Baba, Mika Tomita, Hiroyuki Tsushima. KAMI-SEVEN (seven sheets of paper) presentation for effective reflection of IPE class. The 8th International Conference on Interprofessional Practice and Education(Oxford). 2016.Sep.
- 3) Mika Tomita, Takeshi Baba, Junko Kira. Effect of Interprofessional Education using Team-based Learning on Awareness of Nursing Students towards Teamwork in Healthcare. The 8th International Conference on Interprofessional Practice and Education(Oxford). 2016.Sep.
- 4) 滝澤恵美, 吉良淳子, 富田美加, 齋藤さわ子, 對間博之, 馬場健, 武島玲子, 庄司俊之, 加納尚美. 付属病院での早期多職種連携教育実施後の1年次学生の変化-チームワーク, チーム医療の充実および促進に関連するキーワード分析より-. 第9回日本保健医療福祉連携教育学会(東京). 2016.8月